

## “能”体験講座を受講して

池田 英夫



厳冬の折、中央区の山本能楽堂へ行くことになった。何か高尚な、敷居の高い印象があり、自分一人ではなかなか足を踏み入れにくい世界の様であったが、入口を一步入ると、ビル群の中にまだこのような静かな空間があったのかと驚かされた。“能”体験講座ということで、親世流の山本章弘、当主より最初に能のイロハを教えていただいた。能のなりたち、能舞台のこと、能とはいかなるものか、とりわけ能とは「想像の芸」であり、演者と見る人が一体となってその世界に没頭しなければ理解できないとのこと。舞台

の鏡板に描かれた老松や、緑鮮やかな若竹に華を添え、三間四方の檜舞台で永い時間や遠い距離を表現するのは演者自身だといわれた。中世の世界にタイムスリップし観客を誘うのは、磨き抜かれた技と演者の力量である。

舞台に上がり、能衣裳を着用できるというので、僭越ながら厚かましくも手をあげた。時代を経た貴重な衣裳を順次かけていただいているうちに、心が引き締まり、足のふるえる思いがした。幾重の衣裳も総て一本の帯で留められるのもすごいと思う。衣裳はさほど重く感じなかったが、一枚かけてもらうごとに体が引き締まり、背筋がピンとなった。腰を少し落とし、若干前かがみの気分で背筋をのぼす姿勢は結構苦しく、長時間演じるのは大変なことであろう。最後に、能面に感謝の一礼をし、かけていただいて驚いた。面の中は暗く、足元も左右も上もまったく見えず、目の高さの正面だけで、小さな針の穴から見ているごとく、東南西北の四本柱をたよりに遠近感や立っている方角をはかるのみで、これが演技の世界に没頭できる想像の空間かと一瞬思った。わずか数分の体験であったが、こんなに感銘したのは稀である。その上、二十代の女性の姿にいただき、光栄の至りであった。

能面にはなぜか表情のない、怖いものが宿っているように思っていたが、演者がつけると際限なく表情を変え、憂い、悲しみ、怒り、笑い、時を越えて想像の世界へ引き込んでいくのだろうと改めて認識した。そして、このように想像の空間に身を置くことが、老後の初心として年相応の華を育てるには大切であろうかと思った次第である。山本章弘氏や皆様のご厚意により貴重な体験をさせていただいたことを感謝いたします。



## 武田信玄・山本勘助ゆかりの地を訪ねる

# 特別企画 「風林火山ツアー」

武井 基悦



八幡原の信玄・謙信一騎打ちの銅像の前で：丸忠邦氏撮影

昨年はNHKで大河ドラマ「風林火山」が放映され、また大阪歴史博物館では秋に特別展「風林火山—信玄・謙信、そして伝説の軍師—」が開催され、話題を呼びました。

友の会ではこの機会にと、風林火山ゆかりの地をめぐるツアーを計画、皆さん方にご案内したところ16名のご参加を得、それに歴博学芸員大澤研一氏、旅行者添乗員を加えた計18名で、11月1日より1泊2日の予定で早朝の新大阪駅を出発しました。

戦国時代のなかでも武田信玄と上杉謙信は特に有名な武将であり、甲斐・信濃・越後の地域での英傑の活躍、国内政治を左右する戦略的な動きは興味

深く、歴史のロマンを感じさせます。今回のツアーはそうした期待をもちながら始まりました。

今回のツアーのポイントは、①信玄と謙信ゆかりの代表的な史跡・寺社を効率よくまわることができる。②季節柄、見ごろであろう山梨県随一の紅葉の名所昇仙峡散策。③山梨名物料理を味わう。④歴博特別展解説とセットで、事前理解を深めることができる。ということでした。

11月1日は曇天でしたが、昼にJR甲府駅に到着。広場で巨大な信玄公像の出迎えをうけ、バスにて信玄の菩提寺恵林寺、正妻三条夫人が眠る円光院、日本一の鳴き龍で有名な甲斐善光寺、信玄の城館躰躰崎館をめくり、夕刻、石和温泉ホテル石庭に向かいました。

翌2日は好天にて、昇仙峡で渓谷美を満喫。紅葉には一寸早かったようですが、色づいた葉も見ることができました。その後、武田氏の氏神武田八幡神社に立ち寄り、長野県へ。信玄・謙信といえば川中島の戦い。その故地である八幡原で二人の銅像を見、さらに山本勘助の墓へとまわりました。時間ぎりぎりになりながら、なんとか列車に間に合い、20時には無事新大阪駅に到着、解散しました。

関西から信州・甲州方面は距離的に遠く感じるがありますが、今回訪ねた史跡にまつわる先人の歩みと長い年月の重みを目の当たりにして、妙に間近にあると感じました。これも各人がもっていた歴史的な知識と情報の量、その雰囲気による感動によるものかもしれません。



甲斐の山々 重要文化財 武田八幡宮へ：福原和子氏画

## 西国街道を歩く(その2)―西宮～門戸厄神―

戸田 健治

阪神電車西宮駅で集合し、まず近くの国道沿いにある恵比寿さんで有名な西宮神社を訪れる。昔は海がすぐ手前まで来ていて、漁業や廻船業の守護神として敬われ、大坂と京都からの中国街道・西国街道、そして瀬戸内の船便の交点として殷賑を極め、町並みが形成されたようだ。

神社を取り巻く土塀や戦時中に供出を免れた豪華な彫像が施された青銅製の燈籠、福男で有名な赤門などの解説をいただき、大道芸人の発祥の元である百大夫の社もある。

もうひとつ驚かされたことは、廣田神社と西宮神社との結びつきで境内の一隅に廣田の南宮社があることで、西宮神社は見どころが多かった。



西国街道 廣田神社にて

越水城の旧跡を見て阪神大震災で多くの人々に命の水となった湧水地を通り、阪神球団の参拝で有名な廣田神社で昼食をとった。この神社のご祭神は天照坐皇大御神の荒御魂で神様にも色々な種類があるのにも興味をもった。

廣田神社から最終、門戸厄神の駅へ向かう。道はカーブや突き当たりなど旧街道らしさを残すところもみられたが、震災のせいもあってか、古い面影はみられなかった。

## 花外楼のおもてなしに感服

大阪歴史博物館 学芸員 中野 朋子

私にとって花外楼のお料理と言えば、年に一度の初釜でいただく折詰の弁当以外は縁の薄いものでした。しかし、実際に花外楼でいただくお食事は格別、先付の蓋を取った“瞬間”から“おいしい”、目でも舌でも楽しめる、おいしい料理でした。

お話させていただいたように、金融街として知られる北浜の地は、大坂の玄関口のひとつであった八軒屋着船場や船場の中心地域である淀屋橋にも近く、また大川の四季折々の景観が楽しめるところでもあります。その花外楼での食事会で思いがけず嬉しかったのが、堂本印象(1891～1975)の作品と出会ったことでした。すでにご存じの方も多いと思いますが、明治24年に京都に生まれた印象は、京都市立美術工芸学校を卒業後、しばらく西陣織の図案描きに従事、のちには独自の抽象表現の世界に分け入り、昭和36年には文化勲章を受章します。その印象の作品が床に掛けられておりました。額装の松竹梅図は、印象の《新造形》の世界から抜け出たように斬新で、また染織文様に詳しかった印象の作品らしい光琳文様を彷彿とさせる、デザイン性にも富んだ作品でした。

こうして思いがけず良い絵に出会うこと、そのさりげないおもてなしもまた、とても嬉しいことだと知りました。そして、大阪の料亭文化は、単に食事を供するだけではなく政治と経済の中心であり、また文化を創造し、発信する場所でもあることを再認識する良い機会となりました。



花外楼についてご説明いただく女将

NHK  
大河ドラマ  
特別展

てん しゅう いん あつ ひめ てん  
「天璋院篤姫展」

今年のNHK大河ドラマは「篤姫」です。薩摩藩島津家の一門の娘として生まれ、藩主島津齊彬（島津）の養女になった後、第13代将軍徳川家定の正室（御台所）となります。時は、幕末。外国船の来航、安政大地震、将軍継嗣問題、そして倒幕・戊辰戦争へと、めまぐるしく時代は移ります。その激動期に気骨を持って生き抜いた女性、天璋院篤姫。ドラマは、その生涯を描きます。

大阪歴史博物館では、ドラマにあわせて、4月19日（土）から6月1日（日）まで、NHK大河ドラマ特別展「天璋院篤姫展」を開催します。

展示は、6章から構成されます。プロローグは「篤姫のふるさと薩摩」。薩摩切子などの工芸品をはじめ、薩摩の風景画などが展示されます。続く第1章は「御台所への道のり」。薩摩藩の近代化を推し進めた集成館事業を紹介し、篤姫の婚礼への過程も明らかにします。

第2章は「婚礼～将軍家定と敬子～」（敬子は篤姫の諱＝実名）。この章の見所は、篤姫の婚礼道具です。柄鏡・歯黒箱・花手桶など豪華な漆器の数々です。また、夫となる将軍家定の肖像画なども展示されます。第3章は「江戸城大奥」。篤姫と和宮（第14代将軍家茂夫人）の約朧たる衣装や籠道具などを展示します。

第4章は「幕府瓦解～徳川家存続への思い」。官軍が江戸に迫るなか、徳川家の家名存続を願った嘆願書の紹介コーナーを設けます。そして、エピローグ「明治の天璋院」。晩年の旅行や葬送に関する資料などを展示します。

大河ドラマとあわせて特別展をご覧いただくと、幕末維新の歴史を堪能できることでしょう。



天璋院所用 小袖（徳川記念財団蔵）  
4月19日～5月1日展示

平成19年度 友の会活動記録

月日	曜日	事業名・参加者
4月14日	土	舞鶴バス旅行 52名
6月12日～14日	火～木	5周年記念書森岡文ツアー 23名
6月23日	土	古文書講座 29名
6月24日	日	総会・ベルシャ餅調会 41名
7月20日	金	平野・加美懇話会 35名
7月22日	日	平野・加美見学会 63名
7月29日	日	古文書講座 28名
8月25日	土	普茶料理 44名
9月 2日	日	古文書講座 23名
9月 8日	土	企業家ミュージアム見学 36名
9月21日	金	西国街道(その1)学習会 34名
9月30日	日	古文書講座 22名
10月8日	月・祝	西国街道(その1) 53名

月日	曜日	事業名・参加者
10月20日	土	嵐山火山ツアー学習会 13名
10月27日	土	古文書講座 21名
11月 1日～2日	木～金	嵐山火山ツアー 16名
11月24日	土	古文書講座 22名
12月 1日	土	西国街道(その2) 48名
1月13日	日	「船」体験講座学習会 26名
1月20日	日	「船」体験講座 32名
2月15日	金	とくい室儀宮(773)
2月23日	土	花外様食事 79名
3月 7日	金	西国街道(その3)学習会
3月14日	金	京都観音学習会
3月20日	木・祝	西国街道(その3)

編集  
後記

早いもので、19年度も終わりを迎えつつあります。会員証の切り替え時期となりましたが、もう手続きはお済ませでしょうか。新年度は4月にバス旅行を計画中です。また、博物館ではNHK大河ドラマ展「篤姫」を開催の予定です。博物館の内外で皆さんとお目にかかれることを楽しみにしています。（大澤）